

しいのき



調査進む遠藤山遺跡 2号墳

名誉館長 三 隅 治 雄

区内を流れる妙正寺川の沿岸は、貴重な遺跡・遺物を数多く残す地域として、かねて学界から注目をあびてきました。近くは、平和の森公園北遺跡・新井三丁目遺跡における弥生時代大住居群の発掘、北江古田遺跡における縄文時代の植物遺体や当時の高度な生活実態を示す遺物の発見などがその例です。そして今回、川の南岸の、俗に遠藤山とよばれた段丘の一角を発掘することになりましたが、4月開始以来、早くも、縄文時代早期の炉穴数箇所、弥生時代後期の竪穴住居跡7軒、六世紀前半の円墳2基を発掘しました。中野区内での古墳発見ははじめてである上、写真で見ると円墳の一基のまわりをとり囲む周溝が二重になっているのが他に例がなく、今後の調査が注目されます。学界にまた話題を投げかけることでしょう。

文化財よもやま話

オランダ東インド会社と古伊万里

江戸時代、肥前で焼かれた磁器は、日本国内だけでなく、遠くヨーロッパ諸国へも渡りました。その際、海外との掛橋となったのがオランダ東インド会社です。

この会社は、オランダがアジアにおける商業活動、及び植民地政策のために発足させたもので、中国では、磁器を中心に各種品々を自国に向けて輸出してきました。しかし、17世紀にはいると、明朝から清朝への政権交替及びその後の政情不安が原因で、磁器の生産が減退し、買い付けが困難な状態になります。

▶ 明朝末期～清朝初期の碗
(山崎家資料)



このため、オランダは、中国磁器に代わるものとして、肥前磁器に目をつけます。当時の日本は、幕府の鎖国政策によって、中国とオランダに限って交易を行っていました。従って、オランダ東インド会社は、ヨーロッパ諸国のなかで肥前磁器を輸出する唯一の会社としてその利益を独占します。

そして、肥前磁器は、中国磁器と共にヨーロッパ諸国の王侯貴族たちの間でもてはやされたばかりでなく、ドイツのマイセン窯やイギリスのチェルシー窯などのヨーロッパの諸窯に影響を与えました。

海を渡った肥前磁器は、今日“古伊万里”としてその名を知られるようになり、人々の注目を集めています。

資料館では、本年10月2日(火)～11月16日(土)に企画展「古伊万里—紺碧の美—」を予定しています。

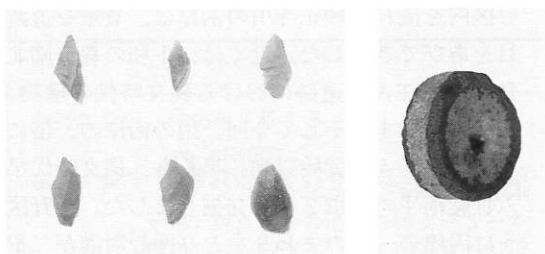
大地に眠る歴史

ゆとりある暮らし？ 採集狩猟生活

中野区のある武蔵野台地に人々が現れたのはおよそ3万年前のことで、稲作が伝わった弥生時代にはいるまで(2300年前)は移動を繰り返しながら植物を採集したり、狩りをして食料を得ていました。この時期は約1万年前を境に、土器のない先土器(旧石器)時代と、以後の縄文時代とに分けられます。区内では先土器時代の資料は少なく、いまのところ1万数千年前のナイフ形石器(写真左)が最古の遺物(新井三丁目遺跡)ですが、今後さらに古い資料が発見されることでしょう。縄文時代になると土器をはじめとして遺物が豊富になり、遺跡も神田川・妙正寺川・江古田川沿いの台地上あるいは水辺に増え、片山・北江古田遺跡などがみつかっています。

ところで、採集・狩猟生活をおくる人々という、「厳しい環境のもとで飢餓にさらされ、常に食うや食わずの状況」というイメージがあります。この点については、今の採集狩猟民の暮らしを調査した興味深い報告があり、食物を得るための所要時間が、現代人の労働時間よりもはるかに短かった(週休4日半!)結果が明らかにされました。また、この人たちは、開発の進む現代社会の中で「へき地に閉じ込められている」わけです。したがって、昔の採集狩猟民の場合は、もっと恵まれた条件の中で生きていたであろうことが予想されます。

写真右は北江古田遺跡で発見された縄文時代後期の、木製の朱漆塗りイヤリングです。昔の暮らしを推測するのは難しいことですが、少なくとも漆塗りの技術をあみだす時間と、装飾品を身につける余裕を持っていたことは確かです。



▲ ナイフ形石器

▲ 木製漆塗り耳飾

古文書つづり

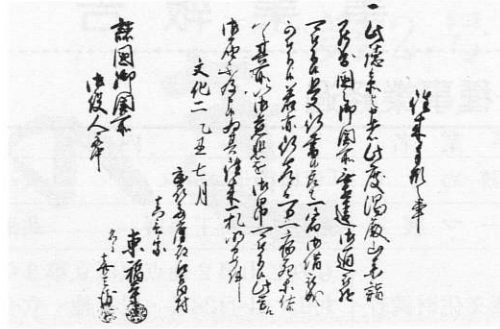
江戸時代のパスポート=往来手形=

江戸時代の旅行のイメージ。某テレビ局の長寿番組で、越後の縮緬問屋の隠居と称して、印籠を持つお供を連れて、毎週一回全国各地に大立廻りの白いひげの老人が、満顔破笑で街道を歩くラストシーンが目につかれます。もちろんドラマのこと、堅い時代考証はヌキにしても、少し気になることがあります。それはご老公一行が関所を通るシーンがほとんどでてこないことです。

江戸時代には勝手きままにあちこち旅行はできませんでしたが、街道には関所があり通行する人を厳重にチェックしていました。関所ぬけが見つかれば重罪がまわっていました。庶民はともかく、ドラマの一行は、伝家の宝刀三ツ葉葵の紋どころを見せてゆうゆうと関所を通ったことでしょう。

さて、庶民の場合はそう簡単ではありません。旅行の際には必ず「往来手形」という身分証明

東福寺が出した往来手形



書(パスポート)を携帯しなければなりません。これには、旅行者の氏名と旅行の目的などが記されており、関所でこれを見せないと通行できなかったのです。

「往来手形」の文章は書き方がきまっていて、旅行者名と目的の他に、もしも旅行中行き倒れになったり、病死したりした場合には、その土地の作法で処置して欲しいということが記されています。そのため文章の末尾に名主と菩提寺が署名、印判をしているのです。

江戸時代の旅行はけっこうたいへんだったようです。

中野往来

—生き残った狐—

中央二丁目の明德稲荷神社の片隅に置かれている、傷だらけの大きな石の手水鉢に、生き生きとした狐を見つけました。関東大震災と太平洋戦争で罹災したにもかかわらず生き残った狐です。

「慶応二年」と「仲町」の文字が読み取れるだけで、用途を失った手水鉢ですが、大切に保存しておきたいものです。

なお、明德稲荷は、中野村の名主、堀江家の屋敷神だったといわれていますが、同名の神社が中央区内にあり、両社の間にどのような関係があるかは不明です。



中野昔話

明治の文左衛門

話し手：区内中央 男 大正5年生

明治の文左衛門なんて酔っぱらいは知ってるけどね。そいつはね、道路に寝ちまうんだ。そいつはね、八百屋があるでしょ、八百屋へ行ったら、「みかん寄せ」って。ほら、おつかねえからってえ、幾つ箱も。で、ほっぽりまいちゃうんだ。表へ。で、みんなおもしろがって、拾うわけ。ただだから。で、八百屋は、ひったくられちゃ、勘定をくれねえんだから。

で、「酒は。酒飲ませろ」って飲んじゃってさ、勘定を払わねえんだ。で、みかん買ったって、払やしねえんだ。んで、それをおっぽりまいちゃうんだ。その男、明治の文左衛門って言ってね。で、道路へ寝ちまうんだよ。えれえのがいたよ。

『続 中野の昔話・伝説・世間話』から

事業報告

各種事業経過

1990年4～6月

事業名	内 容	期 間
史跡めぐり	「青梅街道コース」 大辻英昭氏（区文化財調査員）	4/29
テーマ展示	中野区伝統工芸展 共催：中野伝統工芸研究会	5/22～6/16
埋蔵文化財調査	もみじ山第2地点（区立第9中学校グラウンド）試掘	4/18～4/25
	丸山一丁目28番 民有地 立会	6/21
	遠藤山遺跡 本調査	4/23～（継続中）

* 遠藤山遺跡の調査成果は、本年秋以降に公表する予定です。



▲ 史跡めぐり「青梅街道コース」巡行風景

寄贈資料一覧

1989年1～10月
敬称略・受入順

資 料 名	点数	氏 名
仏壇	1	石森 敏朗
千石通し	3	川本長左衛門
竹かご 他	3	阿部 昭二
たんす	1	細井 稔
ミシン	1	錦織 周二
小学作法書	1	武井ユキイ
免許鑑札・バリカン 他	7	奥田理髪店
鉄釜	1	秋元 節子
硯箱 他	27	山田美津子
築山庭造伝 他	3	岩田喜美子
大工衣装・湯たんぽ 他	12	窪寺 偕祐
計算尺・製図用具 他	8	佐藤 佐壽
蓄音機・レコード	3	金子 仙蔵
消防刺子	1	佐久間鐘太郎
伊万里焼大皿	2	白鳥 菊治
木樋・釘	2	井沢 雪
釜・飯櫃	7	小池 安積
教科書	4	箭内 國岩
回転イス	1	植田 啓介

●貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

NEWS

のれん 区民合作の暖簾

ごらんになりましたか。資料館の入口に大きな蕪かぶの暖簾が下がりました。これは、次の方々のれんの協力で完成したものです。ありがとうございました。

* * *

絵を描いた人 若宮二目の石川千代子さん
糊置きをした人 沼袋一目の細川 道雄さん
染めた人 中央五目の谷口 恒三さん
縫った人 本町五目の関 正子さん

* * *

ちなみに、蕪は、いまはやりの「株」とは関係ありません。家が富むと書いて「家富」と読みます。資料館に大勢のお客様が来館し、繁盛するようにとの願いがこめられています。

NEWS

入館状況

1990年4月～5月（75日間） (人)

一 般	行政視察	学校教育	合 計
8,460	269	1,266	9,995

発行年月日 1990年7月1日

編集・発行  山崎記念
中野区立歴史民俗資料館

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(319)9221 FAX 03(319)9119

(印刷物登録番号 2中教社第5号)